

新潟県長岡市における高齢者世帯の居住実態

○五十嵐由利子 (新潟大)

目的 長岡市は積雪地域の地方都市として発展してきており、これまで、無雪都市宣言や克雪住宅の普及など雪対策に力を注いできた。しかし、全国的な傾向と同様、高齢者人口の比率が上昇し続けていることから、単なる高齢化対応だけでなく、積雪地域という地域特性との関連で高齢者の住環境を捉えることが課題であると考え、本研究はそのための基礎的な資料を得るための調査結果の報告である。

方法 長岡市内全域から高齢者のみの世帯を無作為に抽出し郵送によるアンケート調査を行った。調査は1995年11月に実施し、515世帯から回答が得られた(回収率60%)。

結果 1) 単身世帯が176世帯(34.2%)、夫婦世帯が249世帯(48.4%)で、単身世帯の7割が女性であった。また、世帯主の平均年齢は73.2歳で、後期高齢者の占める割合は4割であった。2) 健康状態が良好なのは世帯主、同居高齢者を含めた場合とも2割で、7割の人があまり無理ができないと回答していた。3) 持ち家居住が9割を占め、持ち家の平均畳数は39.3畳、居住室数は6室以上が6割で、かなり広い住宅に居住していた。4) 住宅で困っている点として「広すぎる」が1割あったが、7割で「屋根の雪下ろしや除雪が困難」をあげるなど、雪対策に関する項目が多かった。「住宅が古くて修繕が大変」と「暖房費がかかりすぎる」が2割前後あった。5) 家族の健康状態と住宅改善の有無との関係に有意な差がみられた($p < 0.05$)。改善した場所ではトイレが6割近くあり、次いで階段、風呂場、トイレに手すりを設置した世帯が多く、この手すりの設置は健康状態に問題がある世帯で多かった。